

特集3

野間辰美に聞く最近のクロ釣り事情

前編

主題

『クロは潮を釣れ!』

潮目、流芯、激流、当て潮、湧き潮、淀み潮、三枚潮etc. 潮の流れは複雑多岐。そんな中でクロを攻略する楽しさ、ぜひ味わっていただきたいものである!!

— ごあいさつ —

「クロ釣りの極意を教えてくださいよ!」そんな冗談めいた言葉をよく掛けられたりする。釣り人としては嬉しいことでもあるが、正直、そんなノウハウを持ってる人がいたら、今頃は漁師にでもなって立派な御殿が建ってるよ。ただ、極意と言えるものじゃないけど、クロ釣りで常に心掛けていることが一つだけある。最近、メディアでもよく引き合いに出される「おもてなし」ズバリその心。言い換えれば「どうぞクロさんマキエサを撒きますんで心いくまで食べて下さい。そして、少しでも恩恵に授かれば深く感謝いたします!」そんなところかな!!



鹿児島市在住

デカグロを年中、追っかけてます!

南のつりアドバイザー
野間 辰美

「クロは潮を釣れ」とは、クロに魅了された先駆けのクロ釣り師たちによって結論づけられた格言みたいなものだ。端的な表現ながらも奥深い意味が含まれ、クロを狙うに当たり、これ以上の的を得た表現は見つからないだろう。

日進月歩で進化し続けるフカセ釣りだが、ウキ釣りによる戦略と戦術は日々に掘り下げられながら裾野を次第に広げている。クロのフカセ釣りにおいて現在最も人気を博しているのが全遊動の釣りりと沈め釣りだ。フカセ釣りで人気を二分すると言っても過言ではないだろう。そのどちらの手法も理路整然とした釣り方が定義付けられ、それぞれに理に適い、それらの手法を軸とした、効果的なクロ釣りが展開されている。

だがしかし、その反面で「最近のクロ釣りは難しい」そんな声が聞かれているのも事実だ。今現在のクロ釣りはウキを主軸とした戦術的な部分だけがクローズアップされている。言い換えれば人為的な都合をクロに押し付けているようなもの。攻めに徹した釣りだけが際立っている。

前途した先人達のクロ釣り「潮

を釣れ」は、ツケエサを「クロに喰ってもらう」といった自然との融合を優先した釣りだ。それに対し、現在の戦術的なウキを主軸とした釣りの場合、ツケエサを「クロに喰わせる」というオフェンス的なスタンスでクロに臨んでいる。

お互い対照的な釣り方だが、釣りの本質は自然との融合が一

番の理想形だと推測するが。とは言っても、全遊動とか沈め釣りなどの手法を決して否定しているわけではない。ただ、あくまでも潮をよく観て、あるいは潮を読みながら、現在の攻め手法を取り入れることで、より一層の効果的なフカセ釣りが楽しめるのでは、と思えたからである。

最近のクロ釣りで今一番 感じている。

前振りがずいぶん長くなった。

さて今回、この項では本誌のアドバイザーでもある野間辰美氏を編集室に迎え、最近のクロ釣り事情をタップリと伺う。ハードな仕事を終えたあとにも関わらず編集部へと足を運んでいただいた。

クロ釣りシーズンに突入したこの時期、クロ釣りに関するノウハウを洗いざらい聞きたいと思う次第だ。

編集部 お疲れのところありがとうございます。早速ですが、最近のクロ釣りで今一番感じること、あるいは感じていることを個人的でも客観的でも結構ですが、何かありますか?

クロ釣りシーズンに突入したこの時期、クロ釣りに関するノウハウを洗いざらい聞きたいながら、クロ釣りファンの皆様に提供し

ウー、
今のクロ釣りの主流は
ウキのオモリ負荷が
軽すぎる…。

